



大鳥居の来歴

当社大鳥居は神社創建から十二年を経た文政六年（一八二三）に建立されています。昭和二年の北丹大震災で倒壊し、翌年同じ場所に組み直して再建しているので、古い写真を見ても全く変わりにくいように見えます。近づいて見ると柱には亀裂が走っていて、倒れて折れた傷跡が遺っています。大震災という歴史が刻まれ今に伝えているのです。

木造の社殿は総て震災で失われましたが、石造りの鳥居や燈籠などは倒壊した後組み直し、場所を移動するなどして現存しているものがたくさんあり、創建以来の歴史を伝えています。

そこに刻まれている文字には、それぞれの時代が色濃く映され、当時の人々の想いが伝わってきます。まさに当社への信仰の念や崇敬の誠が刻まれており、二百年の間多くの人々に支えられて来た証しが遺されています。

平成二十五年
祭行事のご案内

初詣

大晦日より終夜参拝
三ヶ日 御神酒 授与
正月縁起物多数
※元日午前零時より、
峰翔会(こんぴらさん応援団)が
「甘酒」の無料接待を
ご奉仕いたします。

一月十四日(月) 午前七時～
焼納祭(どんと焼)

二月三日(日) 十一時
節分 還暦初老祈願祭
地域にかかわらず
多数お申し込み下さいませ。

四月九・十日(火・水)
春季大祭 吉例「宝籤」開催

「お伊勢さん 初まいり」
伊勢参宮旅行 参加者募集中
二月十三日～十四日(水・木)
参加費一人二二,〇〇〇円

平成二十五年
第六十二回 神宮式年遷宮

初穂料 各500円
好評お授け中
「ナナイロ」が新しくなりました

丹後 親子で楽しむ こども論語塾

日時 2月10日(日) 午前9時30分～
講師 青木順子(あおきよりこ)先生
参加料 子ども 300円 大人 500円
2ヶ月に1度日曜日に開催予定です。
お子様だけでも大人だけでも、どなたでもご参加いただけます。

出展者 募集集中!!

手づくり市

ゆうろくりのおんどり

神社の屋内でお食事や飲物を
「1day cafe」
手づくり体験ができる
「手づくり体験コーナー」開催中!

第3日曜日 【開催日】 12月16日
10:00～15:00 3月17日 4月21日
1月2月はお休みです
<http://konte1.com>

金刀比羅神社
宮司 脇阪卓爾

〒620-0001 京丹後市峰山町東二六五一
電話 〇七七一六二〇二五
FAX 〇七七一六一五九九三

mail info@konpirasan.com
http://www.konpirasan.com

新年祈願 承り中

平成25年の厄年(教え年)

平成7年生	19歳	女子厄年
平成元年生	25歳	男女
昭和56年生	33歳	女子大厄
昭和52年生	37歳	男女
昭和47年生	42歳	大厄初老
昭和28年生	61歳	還暦

家内安全 心身健勝
商売繁盛 会社隆昌
男女厄年 開運厄除
合格祈願 学業成就
海上安全 大漁満足



大正十四年秋の神輿渡御祭当日、石橋付近から撮られた写真です。山際に神輿蔵があり更に奥には二階建ての社務所が見え、震災で失われた建物が残っています。

神馬像
写真右端にある神馬像は明治四十年に吉村伊助氏によって奉納された初代のもので、これは戦時の金属回収で供出され、現在のものは百五十年祭奉賛会長の吉村弥太郎氏が昭和三十六年に奉納されました。新たなものは前片足を上げており、台座には初代の足跡が遺されています。

石橋
現在亀の池に架かる石橋は明治十三年（一八八〇）造営されたもので、その際に描かれた図面が遺っています。震災にも耐え現在も往時のままの姿を保っています。

手水舎
大きな鉄製の水鉢から「金鉢（かなばち）」と親しまれている手水舎は、明治二十八年に竣工しています。明治二十六年四月に「郷社漱水鉢上屋有志名簿」で寄付を募り「水屋設計書」も遺されています。震災被災写真では瓦屋根ですが、昭和八年に銅板葺きで再建されています。



現在の神馬像



150年祭で再び奉納



金属供出の後は台座だけだった



震災で倒れた初代神馬像



現在の石橋



震災前の石橋と境内（奥に万一樓）



石橋設計図



現在の手水舎



震災後に再建



震災で倒壊



手水舎設計図



震災後再建の大鳥居と新設の大燈籠



玉垣が完成し社頭が整う



境内社頭の変遷

大正時代の参道正面の写真で震災以前の様子がよく解ります。現在とあまり変わらないようにも見えますが、正面の大燈籠も石の玉垣もありません。社標の石柱は大正八年に指定された「府社」（戦前の社格）を記念して大正十年に建立されています。

大鳥居の向かって左の柱には、

「文政六歳次 別當 増長院 現在 □□□」

「石出所 阿さみヶ原 石工 五ヶ村 定治郎 佐野村 吉兵衛」

向かって右の柱には、

「未霜月 吉祥日 願主 當所 上河氏 敬白 石工 鱒留村 松助 同 東助 世話人 岩国屋武助」

と創建時の刻印があり、「是為上河氏祖先文政年間所奉納 昭和二年三月七日 北丹有大地震為其所倒壊 孫力蔵君修補再建既継

祖先遺志亦以為震災記念

昭和三年三月七日

社司 毛呂清春記

と震災後に加えられています。

文政の頃上河氏（糞屋金七氏）

によって奉納された鳥居が震災に

遭い、孫の力蔵氏が祖先の遺志を

継いで再建した。と記されています。

大燈籠

震災復旧で境内整備が行われて

いた頃正面の大燈籠が奉納されて

います。燈籠には、

「昭和七年三月一日當

満洲建国之日奉納

大連市在住 松村久兵衛 謹書」

と刻まれており、松村氏によって

玉垣とともに奉納されています。

これによって社頭がほぼ現在のよ

うに整いました。

境内の燈籠

当社境内には総勢三十八基、

二十四組もの燈籠があり、

奉献名も、

「江戸日本橋廻船問屋

銭屋久左衛門

文政四年辛巳八月」

「願主 大坂 薬種屋三軒

仲間 世話人 □□忠兵衛

石工 彦三良

文化十三年十月吉辰」



参道脇にならぶ燈籠



愛宕山御神籠

「奉献 天保八丁酉歳三月

高木内蔵□信濟」

などなど峯山藩家中、機業商店、

町・講とさまざまな奉納があり、

昭和の戦時下には武運長久祈願も

あります。

愛宕山燈籠

当社創建以前の歴史を伝えるも

のでもあります。境内正面の街道沿

い南端には、「愛宕山御神燈」

「天明四甲辰歳」と刻まれ、天明

四年（一七八四）、金毘羅権現勸

請の三十年近く前に愛宕山の燈籠

として建てられた燈籠があります。

社務所中庭にも「愛宕山大権現」

「安永五丙申年」「正月吉日」

（安永五年一七七六）と記され

たものがあり、愛宕山の参道であ

った場所が境内用地となり、そこ

にあったものが移設されているの

かもしれません。